

の団体も調べに来ていたが私はちよと違う考え方をした。あれはカウンセリングだけと思ったが、今はカウンセリングだけでなく遊びの要素が重要と思う。恐山に行く人々は始めてから泣くつもりで行く儀式の中で巫女が呼出した靈の言葉で人々は大変感動される。それが終りではなく湯治場になつてるので夜はみんなお酒を飲んで踊つたりする。一日中、非常にいろんな意味でレクレーションになる。一泊して帰るのだが七月の二十日から二十四日頃までのことで農業の忙しい間にやる。それが非常な趣いで毎年みんな楽しみにして来る。こういう工夫が昔から日本にあつたが段々すててきている。考えてみると、自分にとってのある程度の遊びがあると思っている人といない人では人生の中に違いがあると思われる。

四、結び

能力というのは伸ばせば伸びるしかし伸びし方がある。一生懸命がんばればいいということではなく、ある場合にはリラクセーション、中断、そういうことが適切にできるのである。あるいは実際に頭の中でメンタル・リハーサルをするといつたことである。いずれにしても人生というのは自分の能力をどれだけ伸ばそうか工夫することにあるのではないか。

第11回高専祭を終えて

も次回次々回へと高専の発展に伴ない学生の創造力の続く限り作品の発展もあり高専祭本来の意味で

認できた高専祭でもあった。

この形式の高専祭が初めてである総合実習の発表の場としての高専祭を待てるものである。元の高専は袋小路などではなく学生

学生会々長
徳川英臣

分楽しむことが出来た。各学科、サークルとも趣向を凝らしたものばかりで「よそぞこにまでやつてくれた」と賛嘆と感謝の気持で胸が熱くなることも度々であった。

ほんとうに高専祭というものは学生の日頃隠された力が發揮されたりする。いやこの気持ちは僕ばかりでなく多くの人々がもつと強く感じたに違いない。

オ11回の成果は、目に見える部

分見えない部分があつたと思う

前者は長い準備期間で例年の二倍

の予算をかけた事、後者は高専祭

の予算をかけた事から出発した事であ

る。就職試験のため三日の市民館

での催しに参加できず残念だった

が、五、六日の校内での催しで尤

あとがき 安元正也

紙数の関係でたくさん興味あ

る事例を割愛せざるをえませんで

した。高速道路催眠、いわゆる魔

のカーブの話、座標の折の脳波

催眠を用いた記憶実験など。そし

て大車なメンタル・リハーサル、

メンタル・ブランチスの話を載せ

られたんだと云う満足感でいっぱい

である。

今まであまりにもマンネリ化し

過ぎた高専祭を打破する意味も含

めての高専祭の成功は低迷してい

る高専の現状を脱出する大きなワ

ンスステップになつた事と思う。

今回出品した物の中で完成した

物もまた完成に至らなかつた物で

我々が一年間蓄えて来たエネルギーを燃焼させた今、何か切々と胸に込み上げて来るものがある。

実行委員会の者として反省すべき所は、山程あるが、とにかく成功させたんだと云う満足感でいっぱい

である。

今まであまりにもマンネリ化し

過ぎた高専祭を打破する意味も含

めての高専祭の成功は低迷してい

る高専の現状を脱出する大きなワ

ンスステップになつた事とと思う。

今回出品した物の中で完成した

物もまた完成に至らなかつた物で

我々が一年間蓄えて来たエネルギーを燃焼させた今、何か切々と胸に込み上げて来るものがある。

実行委員会の者として反省すべき所は、山程あるが、とにかく成功

させたんだと云う満足感でいっぱい

である。

さつた教職、その他、各方面の大会並びに惜しみなく御協力ください。最後に改めて、みんなほんとうに苦労でした。そして高専祭の軸となつて活躍してくれた実行委員会並びに惜しみなく御協力ください。さつた教職、その他、各方面の方々に厚く御礼申し上げます。

副実行委員長

野間口勝康

我が一年間蓄えて来たエネルギーを燃焼させた今、何か切々と胸に込み上げて来るものがある。

実行委員会の者として反省すべき所は、山程あるが、とにかく成功させたんだと云う満足感でいっぱい

である。

今まであまりにもマンネリ化し

過ぎた高専祭を打破する意味も含

めての高専祭の成功は低迷してい

る高専の現状を脱出する大きなワ

ンスステップになつた事とと思う。

今回出品した物の中で完成した

物もまた完成に至らなかつた物で

我々が一年間蓄えて来たエネルギーを燃焼させた今、何か切々と胸に込み上げて来るものがある。

実行委員会の者として反省すべき所は、山程あるが、とにかく成功

させたんだと云う満足感でいっぱい

である。

今まであまりにもマンネリ化し

過ぎた高専祭を打破する意味も含

めての高専祭の成功は低迷してい

る高専の現状を脱出する大きなワ

ンスステップになつた事とと思う。

今回出品した物の中で完成した

物もまた完成に至らなかつた物で

我々が一年間蓄えて来たエネルギーを燃焼させた今、何か切々と胸に込み上げて来るものがある。

実行委員会の者として反省すべき所は、山程あるが、とにかく成功

させたんだと云う満足感でいっぱい

である。

今まであまりにもマンネリ化し

過ぎた高専祭を打破する意味も含

めての高専祭の成功は低迷してい

る高専の現状を脱出する大きなワ

ンスステップになつた事とと思う。

今回出品した物の中で完成した

物もまた完成に至らなかつた物で



球技	ソーボール	職員	バレ
各科対抗R	M	四分一九秒四	
陸上競技フリードルの部			
百米	4M西原	二秒七	
二百米	1E井上	五八秒七	
四百米	2E井上	七秒八	
女子五百メートル	4C上原	五米三五	
四百米R	4M	五〇秒七	
五百メートル	2E井上	五八秒七	
スウェーデンR	4A	一分一	
七六点			
走り幅跳	3M宮原	一米六二	
走り幅跳	2M徳永	五米三五	
二〇四点	C一七九点	A一	
ハンドボール投	5M川西	二	
ハンドボール投	5M川西	二	
スウェーデンR	4A	一分一	
七六点			

が、やはり準備期間は長ければそれだけ立派な物が出来る事が再確認できた高専祭でもあった。

この形式の高専祭が初めてであるならば実行委員会の活動の内容も初めての試みであることは言うまでもない。だから分からぬことも多くあつたが高専祭当日の様子を見るとその勞も報われるといふものだ。実際、各科のパートや各サークルの発表には目を見張るところなく日々の積み重ねの大規模な大会への才歩は、踏みだしたばかりである。これで終る事なくパートの仕事を続けて下さい。

また市民館での高専祭は8年ぶりである。これまで初めての経験であった。過去の資料その他はほとんどない。立派だった。

まさに氣づいてもらいたい。最後にオ11回の高専祭は、終つたけれどものが多かった。完成はしなかつたが機械科のホバークラフトや建築科の多くの模型、特に高専模型

までもない。だから分からぬことも多くあつたが高専祭当日の様子を見るとその勞も報われるといふものだ。実際、各科のパートや各サークルの発表には目を見張るところなく日々の積み重ねの大規模な大会への才歩は、踏みだしたばかりである。これで終る事なくパートの仕事を続けて下さい。

第12回 全国高専体育大会

報告

全国大会には、団体戦のバスケット、個人戦の陸上、軟式庭球・剣道・柔道（いわき市）と、団体戦ハンドボール（秋田）に出場した。バスケットは全国第三位に、陸上百米では4Aの城山繁俊君が全国第二位に入賞した。その他、軟庭は津崎、宮津組が旭川を抑え、柔道5M石橋君は宮城を抑えて健闘した。その他剣道1C境君、砲丸投5E徳川君、それにハンドボール団体戦も力戦健闘した。

明高専だより

昭和52年11月15日

陸上競

准決勝で堂々全国のトップに立つた。追風1・7メートルのもと11・2秒しかし決勝で追風3・3メートルのもと11・5秒で全国一位になったのは残念だったが勝敗は兵家の常、全効力疾走に最大の敬意を表したい。

5E徳川が投げた砲丸は手前味噌の欲目で見たところ堂々と飛ん

1・3・1、ゾーンディフェンスなどでゲームに臨んだ。幸いにして地区大会に勝ち、全国大会の出場を得た。私はこれらの経験を、五年生は実社会で、残った部員は新たな目的達成のために努力を続け

でズシンと落したが残念ながら入賞には到らなかつた（記・樋口）
バスケットボール 殆んど毎日のようにコートに出て練習するのは、人によつていろいろの目的があつうが、私達の目標は、よりうまくなり、強くなつて、ゲームに勝ちたいことであり、また体育的・教育的な成果も、このゲームに勝つための努力を通してはじめて達成できることであろう。チーム、オフエン

るであろう。なお卒業生諸氏の、春期合宿、全国大会出場に対する激励、ご支援を、部員一同と申します。全国スコア、左の通りCブロック
有明 66—51 高松
有明 51—48 大阪府立
富山商船 64—61 有明
101—74 松江
(記・仁田原)

予戦リーグで宮城の身長一八五センチの体格に圧倒され、明石高専の鏡堂未引負けましたが、後、相手の巧妙な残念ながら予戦り。

において、オ四回大会が十六校の参加で行われ、我が校はオ一回戦で、関東の育英高専と対戦した。

より。
更に試合経験を積んで来年度に
期待したい。
(記・北岡)

ESSは二名の上位入賞者を出す好成績だったが、今年は、わずかに4C上原が入賞しただけだった。それだけに部員の英語劇に賭ける意氣込みは相当なものだった。

しいものだった。上演の前日、辛い表情で準備を進める部員を見ていると、正直言つて非常に心配だったのだが、翌朝の部員の表情を見た時、その心配は消え失せた。皆やる気には満ち溢れていた。

慌しくメイクアップを済ませ、午前十時、市民会館の幕が上ったさすがに足が竦んだ。しかし、中盤にさしかかると、普段の努力の成果が發揮することができたようだ。嬉しいことに、第2幕が降りた時、大きな拍手が我々の耳に入

（記4 A 牧 眞二）

さしあげたことで、部員の心は清々しくなった。ESNSはまだ発展途上にあるのだと感じている。今後さらに精進していくつもりである。

人通りも少なく寂しい位の静けさであった。今回、会の発案者の一人である六山先生が顧問を降りられたので、今後の継続が危ぶまれる程であったが、学生達の元気溢れる演奏は、そのような不安を吹きとばしたようだ。

だが、練習場、練習の期間、会員宿場等の問題が残され、顧問、学生、校間同志の話し合いが強く望まれている。その中から、今後どのようにしていくかが決まるだろうと思われる。

(吉武)



英語劇「ハムレット」上演 E.S.S